



佐藤 孝太郎さん(78)
和子さん(74)
津山町・横山9区
1964(昭和39)年7月入籍

孫の部活の「追っかけ」が楽しみ

★二人のなれ初めは
【孝太郎】父を亡くし、農業するのにおお変だから、あだりから「結婚しろしろ」と言われ、仲人が世話してけだんだね。
【和子】農協に就職したばかりだったけど、その頃は、親が結婚相手を決めてだもんね。
★お互いの性格は
【孝太郎】仲人からは、「おとなしく優しい子だが、おとなしくって言われたの(笑)」。
【和子】3人きょうだいの末っ子で上2人が女だから、おっとりしてるの。怒ったことないね。
★結婚当時の思い出は
【孝太郎】親戚付き合いが多く、しょっちゅう一人で出歩いた。
【和子】二町田の田の草を取るのにおお変だったね。四つんばいになって、素手で取るから何日もかかって。義母は、お客さんが来るぞ、「和子は何でもよくやる」と褒めてくれて。義母は褒め上手なのさね。
★現在の楽しみは
【和子】中学生の孫がバレーをしていて、その応援が楽しみ。二人で古川まで行くよ。私ばかり行くのも都合悪いもの(笑)。
★夫婦円満のコツは
【和子】何もしなくても円満だよ。
【孝太郎】はいはいと言つてればいいんでない。たまに、返事はばかりで怒られるけどね(笑)。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「太い絆をいつまでも」
春を迎えると当時の思いがよみがえる。半世紀以上前の1960(昭和35)年3月10日、佐沼高を卒業した私は廃線になった仙北軽便鉄道の佐沼駅で、多くの人たちに見送られて古里を離れた。「まだなあー、頑張れよー」と一緒に遊び、時には議論した同級生。出発前にデッキリまで駆け寄り「弁当買って食べてえがしえー」と、ポケットに2千円を押し込んだ叔母のこと。今思えばこの時に、心温かな古里の人たちへの感謝の気持ちがさらに膨らみ、古里を離れることに希望と自信が湧いた。古里の人たちの温かいエールが、私の人生の支えとなってきたと思う。
高村光太郎の詩集「道程」

平井 紀光さん(76)

関東地区宮城県南方町人会
副会長
南方町(北本郷)出身



に、次の一節がある。
僕の後ろに道は出来る
ああ、自然よ
父よ
僕を一人立ちさせた
広大な父よ
僕から目を離さないで
守る事をせよ
常に父の気魄を僕に充たせよ
この遠い道程のため
この遠い道程のため
文中の「父」を「古里」に読み替えると、志を胸に地元を離れて新たな道を歩み続ける人の望郷の念、そして古里からのエールに、強い思いをイメージさせているように感じる。
このような思いが、関東地区南方町人会の発足につながっている。当時、集団就職等で古里を離れ、慣れぬ都会で人生を歩み始めた若者たちに古里の思いや応援の声を届け、互いに支え合い親睦の輪を広げてきた。社会が便利になつても、人のつながりは変わらない。昨年の総会では、90人ほどが集い、思い出話に花が咲いた。50周年を迎える本年度の総会。古里からたくさんの方の参加者を期待し、この絆がいつまでも続くことを願っている。

おらほの物産

とよま観光物産センター
「遠山之里」



登米コレは「登米市&とよまのおいしいをギュッと心を込めて詰めました」とスタッフの皆さん。

今月は、とよま観光物産センター「遠山之里」の山田忠則取締役管理部長にお話を伺いました。
Qこれから開催されるイベントを教えてください
2018(平成30)年は、明治元(1868)年から起算して、満150年の年に当たります。この記念の年に、みやぎの明治村では、関連イベントを企画しています。
4月21、22の両日、春の「はつと屋台村」を開催します。屋台村は、市内6店舗が出店し、定番の油麩、牛モツ、アズキ、海鮮、赤豚カレー、ずん



「はつと屋台村」春と秋に開催され、多くのお客さんでにぎわいます。

だ、すり身はつとなど、バリエーション豊かなはつとを取りそろえています。さらに焼き鳥、ホルモン、とり弁当なども販売。ご家族や友達などにご来場いただき、さまざまなお楽しみください。
4月1日から、教育資料館
など歴史資料館へ着物で来館した人を対象に、入場料を2割引きにします。期間は11月30日まで。明治、大正ロマンあふれる「明治村」を着物姿で散策し、タイムスリップしてみませんか。
Qお勧め商品などを教えてください
本市自慢のお菓子をコレクションした「登米コレ」。季節によってお菓子の組み合わせが違うので、コレクションをぜひ、一度ご賞味ください。
【問い合わせ】とよま観光物産センター「遠山之里」
☎0220(52)5566

短歌
まちの文芸

作品募集!
5月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、3月30日(金)までご応募ください。氏名作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

行事過ぎ静寂戻る参道に
正中の先灯明の灯り
人柄を偲びし語る同級生
通夜の席にて偉大さ知りて
雪の道ヘッドライトに照らされて
光のシャワーさらさらさら
日だまりの枯葉に埋もる福寿草
暖かいねもうすぐ春よ
北上の波間に漂う雁の群
羽ばたくしぶき旅路の備えか

洪谷 清香 (迫)
管原たろ子 (迫)
三浦 智恵 (迫)
千葉 良子 (東和)
丸山 米子 (東和)

はりつめし池の水に影写し
鯉動きいるつめたかろうに
平昌五輪日本選手活躍や
貰いし感動日々の生活に
書初めにひ孫今年もまた特選に
聞きて元気にわれはたびけり
ふり袖に和むりピングいつまでも
見つめて居たい二十才の笑顔
福寿草黄金の花色ほっこりと
樹下に優しく陽春知らせ

小野寺典子 (中田)
石崎よしの (米山)
千葉たかこ (米山)
三上久美子 (南方)
阿部 洋子 (津山)